

知事と区市町村長との意見交換会(町田市)

令和2年9月17日(木)

15時10分～15時30分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からお願いいたします。

○知事 町田市石阪市長には御足労をお掛けいたしております。最近なかなか会議がこういう形では余りなくなってしまうんですが、久しぶりにお目に掛かれて大変嬉しく思います。

また、今日は例年進めて参りましたが、直接お話しするというので、この時間を設けさせていただきました。

特にコロナとの戦いというのはもう毎日いろいろな数字も出てきて、そしてまた多様にそれぞれ御努力いただいていることかと思いますが、ウィズコロナの社会をいかにして生きていくのか、このことも問われているところであります。また、この難局を立ち向かっていくということはオール東京で取り組む必要があるかと思っております。

また、今日は長期戦略も見据えながら、その策定のためのいろいろな御意見等も伺うということで、この時間を活かしていただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○行政部長 それでは石阪市長、御発言をお願いいたします。

○町田市長 改めまして、今日はこういう時間をいただきまして、ありがとうございます。

最初に、私ども保健所の方にたくさんの保健師さんの派遣をいただきました。ありがとうございます。4月、5月は潰れそうだったんですけど、応援をいただいてから何となく所長以下、余裕を持って仕事ができるようになりました。本当にありがとうございます。いろんな場面で知事の方で御尽力をいただいておりますので、一言で言えば何とかやれているということではありますので、改めて御礼を申し上げます。

今日はICT教育でいいことふくらむまちだというサブが付いていますが、教育の話を見せていただきたいと思っております。

この先、多分ウィズコロナで育っていく子供達は、大げさに言うと日本を支える世代をどうやって、このICTを通じて育っていただくかということ、今模索をし始めたところなので、その報告を今日はさせていただきます、併せて若干のお願いを申し上げたいというふうに思います。

Machida Next Education。いつでも、どこでも、誰とでもというタイトルがありますけれども、私どもの方では現状では技術革新だとか、グローバル化だとか、そういったグローバル化なんかは特に英語がそうなんです、今回はICT教育、授業をICTを活用していく未来型というんですか、切り替えを3年ほど前から始めておりますので、その紹介をさせ

ていただきたいと思います。

まず使っているものが Chromebook と G Suite for education というソフトなんですけど、Chromebook の機能というんですか、G Suite の機能というのは非常にやりやすいので、私どもはこれはいいなと思って採用させていただいております。

これはデジタル教育とか ICT 教育に限らず、対話と協働と探求というのは学校教育の中で基本路線としてあるわけですが、それが逆に言うと Chromebook を使ってやるというのは、この三つの対話と協働と探求と非常に向いているというふうにも実感をしておりますので、それで子供達の力を伸ばしていけるなというふうにも、今のモデル授業、モデル校を通じてそんな受け止めをしております。

学校の様子は左側の玉川学園前駅の山の上にある町田第五小学校で、右側は西の方にあります堺中学。これはマスクをしていませんから去年の映像でございます。もう2年ほどやっているんですけども、対面授業というのと、今回自宅学習というんですか、それを始めたりしていますので、私達は自宅でやるのはテレスタディと呼んでいます。テレワークというのはどうもサラリーマン本位。子供達の場合はテレスタディにしようって言って、中にはテレスタって何のことか分かんなくなっちゃうんですけど、テレスタディという言い方をして、ホームワークという言葉もあるんですけど、それだと何となくデジタルっぽくないので、テレスタディと呼んでいます。タブレット、それからこのここの絵は対面の授業の場面、テレスタディじゃなくて対面授業ですが、タブレットを囲んで議論をする。つまりタブレットを媒介にして議論をするというやり方の授業風景であります。

それから対面学習はいろんなやり方があるんですけども、皆で共有しながら左側の画面に投影しながら議論をします。この絵はプレゼンをやっているところだと思います。

それから右側はこれ中学生ですけども、それぞれのグループの意見をまとめるのにタブレットを介して、そこをこう直そうとか、ああそうとかやっていて、タブレットを中心に発表内容を決めることができると、そういう機能を持っているというのがいいことかなと思います。

逆に今度は個別化というんですか、一人一人の進路、進み具合に合わせて課題を変えていくということが education の中に出てきますので、それも今、実験と言っては子供に悪いんですけど、この子はここまで、この子はここまでって、一人一人合わせて、進路に合わせて課題が変わっていくみたいな、そういうやり方をしていますので、皆置いていかれないように、それぞれに合わせて勉強ができるようにするというやり方も、この G Suite の中にはあります。

それから次がいつでも、どこでもって、教材を配信するスタイル、真ん中にある教材配信するスタイルで、これは宿題型というんですか。それで右側にあるのはライブ型。ライブ型の方はもう授業時間に合わせて家でできるというやり方ですね。そういうやり方をしています。休校になった時にはもうホームルームも皆これでやっています。

それから右側に、さっき言いましたテレスタディは家庭でもできるし、学校を離れていても学校と同じように勉強ができるという、そういうやり方で、今度は宿題をホームワー

クって言わないでテレスタというふうに名前が付くかもしれませんが。

幾つか課題がありますので、その課題を三つぐらい。一つはお金のお話をして恐縮なんですけど、ICTスキルの向上を今やっているのは3校だけなんで、2021年度は全校でもうタブレットが来ていますからやろうということで、ICT支援員というのを東京都の情報機器整備支援事業っていうのがございますので、それを活用して進めていきたいと思っております。できればそれこそ全校にICT支援員を配置したいぐらいの、一応そんな意気込みだけは持っておりますので、よろしくお願いいたします。

それからもう一つは工事の話で、国の予算ですね。教室分が来るんですね。特別教室分とか、体育館分は来てないんですね。ですから特別教室とか体育館とか、それはネットワークいらなかってそんなことはないの、そういったところも是非国の方には御要望いただきたいというふうに思っております。

最後に端末、5年6年すると更新になります。ですから10数億、ここでは13億、私どもの場合は13億5,000万ですけど、一斉更新になってしまいます、一斉に入れていますので。そこが大変かなって。入れる時はお金だけ、更新の時は出さないよと言われて、今から心配をしておりますので、すみません、よろしくお願いいたします。以上でございます。ありがとうございます。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは知事からお願いいたします。

○知事 今日は教育一本勝負ということで、これだけ、3校っておっしゃいましたけどね。でもそうやって常にやっておられると、今回のような事態が起こってもその3校はかなりオンラインでスムーズに教育は進んだんでしょうか。

○町田市長 授業そのものはまだできてないんですけども、ホームルームだとか、いろんな打ち合わせとか、そういったものはもう今ミートという機能があるので、それで3校は出していただいております。

○知事 これからも両方いつでも使えるようにという形で、慣れてもらうことが必要かと思っております。

それから都としまして教育のICT化を推進する、東京スマートスクールプロジェクトを加速させております。そのためにお話がありました、ICTの支援員、それから家庭学習のための通信機器等に関する財政支援、これを実施をしているところで、これらの経費については今お話がありましたが、十分な財政支援を行うように、これは国もプロジェクトやっておりますので、こちらも要望して参ります。引き続き地域の実情に合った形で支援をして参ります。

それからGIGA schoolということでもありますけれども、これも国に対して校内ネットワークの整備の補助期間を延長してほしいとか、単価を見直してほしい。端末の更新時の費用、今のお話ですね。十分な財政支援を行うように、国に対しての要望を続けていると。

それからICTの支援委託のモデル検証事業ですけれども、今年度で終了ということではありますが、引き続き都としても端末導入後のICT支援員に対しての財政支援等を行って、そして支援をしていきたい、このように考えております。

先駆的にいろいろとやっていたらいいこと、またそれらの知見をうまく共有できればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○行政部長 石阪市長、いかがでしょうか。何かございましたら、お願いします。

○町田市長 一番心配しているのは、教員のレベルのばらつきというのを一番心配していますので、先ほど言いました ICT 支援員を含めてかなりの人手を入れないと教員のレベルを合わせるのは大変かなと。正直に言うと、現状でも教員によって少し差があるので、これ全校というふうになるとかなり出てきてしまうのかなというふうに思っていますので、そこを防げないと一般の、デジタル以外で、落ちこぼれという表現はよくないですけどなかなかついていけない子が仮に5%とか10%いたとすると、そこにデジタルのハードルが加わって、増えてしまうのではないかと心配しているんですね。それで今度は教員の方も同じなので、余りひどいことは言えないんですけど、教員だって優劣の差があるわけですね。そこへデジタルの壁みたいなのが来てなかなかうまくいかない、そこを一番心配してはいます。

○知事 教える方も教え方が黒板に対してチョークで書いているのと勝手に違うだろうと思います。また学ぶ方も、生徒の方も意外と口べただった子が意外とテレスタディになると活発だったり、皆新しい経験をしながら、できるだけ ICT のよさをうまく活用できればというふうに思っています。

○町田市長 あと、学校に行きたくないとか、いろんな事情で行きにくいとかいう子も、このテレスタディというんですか、テレワークというんでしょうか、学校の授業が自宅でもできれば学校へ行ってもいいかなという子供が出てくるんじゃないかなと思って、ちょっとそこは期待しているんですけどね。

それで行かなければ学習ができないという今の状況じゃなくて、行かなくてもできるのであればそのハードル下がりますから。逆に今度は行ってもいいかなというふうに、逆の方向になるかなって、ちょっと期待をしています。

教科書ですね。やはり教科書を PDF で載せても余り意味がないので、早めに教科書がデジタルの教科書に、つまり最初からデジタル用に開発した教科書が普及させられると。実際は文科省が中心になるんでしょうけど、私たちはせっかくタブレットが一人1台ずつあるのであれば、あの教科書の重いのを。

この間、中学1年生の女の子が通っているのを見たら、荷物の方が体重より重いじゃないかって、そんなことはないのかもしれないけど、とにかく後ろに引っ張られながら歩いていて。あれ教科書満載しているんですね、バッグに。タブレット1個乗せてばいいんだから、相当楽になると思うんです。なかなかならないので、ちょっと余り大きい声では言えないんですけど、本当は早く、2年ぐらいで入れてもらいたいなど。つまりバッグにタブレット1個で通えばいいという時代にならないかなって。それは今度の新しい首相などいろいろ言っていますので、そこを加速していただけること、知事の方からもお願いします。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは最後に知事からお願いいたしま

す。

○知事 ありがとうございます。現場の声、実情、課題等、直接お伺いすることができました。教育は百年の計とも申しますが、教え方がこれだけ変わってきますと、いろいろ困難なこともありますし、逆にその子に合せた形での教育もできるというふうに聞いております。こういった中で子供達の教育が遅れないように、またこれからの人材を育てていくという意味でも、また ICT は日本は周回遅れと言われておりますけれども、ここを取り戻して、そして都庁でももう本当にペーパーレス等、しっかりやっていきたいと思っておりますので、お互いこの辺のところは情報を共有しながら磨いていければと思っております。

今は国難とも言える局面かとも思いますけれども、先ほど申し上げましたようにオール東京でここは勝ち抜けるようにしていきたいと思っております。また今度ともよろしく願います。

○町田市長 こちらこそ、よろしく願います。

○行政部長 それでは以上で意見交換を終了いたします。本日は御多用のところ、どうもありがとうございました。

○町田市長 どうもありがとうございました。